

(様式3)【藍住西小学校 実施報告書①】

拠点校として取り組んだ実践研究テーマ

児童一人一人の学力の向上とその基になる学習習慣等の形成を図り、学ぶ楽しさを味わわせ心身ともに健康でたくましい主体性・実践力のある児童の育成に努める。

実践研究の内容等

月	内容等
5/10	○拠点校事業①【中学校区内での学力向上実行プラン検討会】:各校の現状と課題を共有し、県教委・鳴教大の指導の下、学力向上実行プランの策定。 ○校内研修:
5/12	昨年度の課題を共有, 学力向上実践研究テーマ, 計画作成。
6/ 2	○拠点校事業②【中学校区内で認知能力並びに学力の基礎と向上させる手立ての研修会】講師招聘によるコグニショントレーニング(以下コグトレ)の研修。
6/30	○拠点校事業③【研究授業】6年3組。新型コロナウイルス感染症のため拠点校・協力校の教員が授業と研究会参加。
9/ 1	○校内研修:1学期の実践, 成果, 課題の報告と, 今後の重点的指導事項の確認, 全国学力, 学習状況調査の考察。
9/14	○拠点校事業④【学力向上についての研修会】 学力調査の分析結果や課題の共有・学力向上に向けた情報交換, 手立ての工夫について県教委・鳴教大講師招聘による改善指導。
11/ 9	○協力校の研究授業公開。藍住南小学校4年生の算数の授業に担当者, 学力向上担当, 4年生担任, 3年生担任が参加し研修を深めた。
11/10	○研究授業, 授業力・学力向上についての研修会 研究授業1年1組並びに, 研究会。本校職員が参加。学力向上に向けた手立ての工夫を各担任が報告。学力向上実行プランの見直し。
12/ 8	○校内研修:2学期までのコグトレ実践状況, 学習状況と成果の振り返り。
1/27	○【拠点校事業⑤「学力向上」についての研修会】:研究授業4年1組と研究会, 鳴教大・県教委の講師による指導。本年度のまとめと次年度の課題の共有。
2/9	○校内研修:本年度の課題を共有, 次年度の学力向上実践研究テーマ, 計画作成。

(様式3) 【藍住西小学校 実施報告書②】

取組の流れ



特徴ある取組について

- ・6月2日に拠点校事業で高越小学校佐藤道子先生を講師にコグトレによる認知能力向上が心や学級集団の安定や学力向上につながることを、身体のコントロールについて体験を通じた研修をしたりした。
- ・鳴門教育大学岡田康孝 先生がお教えくださった授業チェックリストを活用し、各担任が自己の授業を振り返ったり、研究授業参観者が記入したりした。

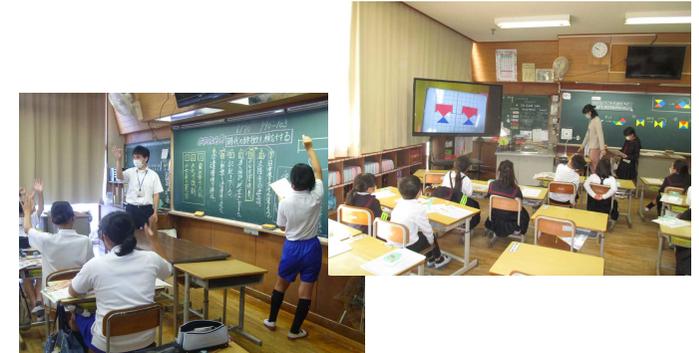
コグトレ研修会



コグトレ風景



研究授業



授業チェックリスト

授業チェックシート (授業自己チェックシート・授業参観シート) 藍住西小学校

日時	月	日()	校時	教科	学年	年 組	授業者	参観者	
視点	具体的な項目						自己評価 (◎・○)	気づき・コメント	
予定1	「めあて」を事前に準備し、すぐに提示できるようにしている								
ユニバーサルデザイン	①	わかりやすい図解や指示を行っている							
	②	わかりやすく工夫した板書を行っている							
	③	児童に肯定的な表現で話しかけている							
自己発露	④	一人黙ったり、考えたりする時間を確保し、自分の考えを述べようとしている							
	⑤	自分の考えを発表する場を設定している							
協働学習	⑥	ペア学習、グループ学習の場を設け、考えを交流させている							
	⑦	発表の時は、発表者の方を向いて静かに聴くように指導している							
	⑧	お互いの発表を共感的に受け入れるように支援、評価している							
協働学習	⑨	児童同士の発言をつなげ、集団の学びを深めたり広げたりしている							
	予定2	めあての達成状況を振り返り、学習の「まとめ」をさせている							
感想									

(様式3)【藍住西小学校 実施報告書③】

取組の成果

・学校力向上について

学校力を全教職員が足並みを揃えた取り組みを行うことと捉え、全校で児童の発達段階や実態に合わせた内容のコグトレを行い、担任からは、「集中力や意欲を高める」「繰り返しの取り組みが自信につながっている」「児童の実態把握に役立つ」などの意見があり、学校評価では、93%を超える児童からプラス評価の回答を得た。

・授業力向上について

研究授業を年3回実施した。研究会の内容は、印刷や会議を通して全教職員が共有した。また、授業チェックリストを使用し、その評価項目に沿って普段から自己評価をしたり、研究授業ではその項目に沿って参観者の意見を聞いたりして各担任からは授業について自己評価をするという点で役立つという感想を得た。

取組の課題

・コグトレは、学力の基礎力を向上させる取り組みとの位置づけで行っているため、明確な結果が出てきにくい。その点から、児童が根気強く取り組んだり、各学級で実施するための時間の確保、用紙代・印刷の時間の確保が難しい。

・授業チェックリストの活用は主に研究授業で行い、各学級の授業中は担任が各自で活用したが、その活用頻度は担任任せになった。その点をいかに改善していくのか話し合う必要がある。

2年目に向けて（取組の成果や課題をもとにした具体策等）

・本年度の実践に対して検証を行い、次年度の改善点を洗い出したい。その中で、さらに、児童が主体的に学ぶ習慣をつけるために、自主学習を充実させたい。その中で書式や評価のあり方等について全校で統一したものを作成し、取り組んで行きたい。

・授業力の向上については、メンター制度と連携した相互授業参観等のOJTの充実、モジュールタイムの充実、学習指導委員会等の設置により各教員の工夫した実践等の情報交換の機会を設定する。